

1. 調査報告概要表

グループホーム名： グループホームあじさい

評価調査員氏名： 近藤 順子 / 山崎 一輝

講評
全体を通して（特によいと思われる点など） （記述） ○ 牛窓の田園地帯に根付いた福祉施設と介護支援事業所に併設されたグループホームで2007（2ユニット）年に開設し、母体（社会福祉法人）の福祉施設、介護支援事業で築かった技術、知識を元に質の高いケアが行われています。 ○ 笑顔と自然な触れ合いの中にパーソンセンタードケアを心がけた支援への取り組みが見られました。ホーム長をはじめ全職員の一致した意識レベルの高さと向上心が諸々の記録・記述等からも伺えました。 ○ パーソンフッドを大切にしたコミュニケーションが図られておりインフォーマルの活用への取り組みも積極的に行われています。 ○ 広大な敷地内は散歩によるリハビリテーション（嗅・視・聴・触・バランス感覚の刺激による残存機能の啓発）と外気浴による共同生活でのストレス発散にも繋がっており、環境資源の役割を果たしている様に感じられました。
特に改善の余地があると思われる点 （記述） 特に改善というわけではありませんが、これからも常に向上心に沿った改善を心がけ、豊かな技術と知識でよりよい共生への取り組みを継続される事を期待しております。

2. 調 査 報 告 書（評価項目）

グループホーム名： グループホームあじさい

評価調査員氏名： 近藤 順子 / 山崎 一輝

項目番号		項 目	できている	要改善	判断した理由や根拠、特記事項、改善すべき点等
外部	自主				
I 運営理念 1 運営理念の明確化					
1	1	○ 理念の具体化、実現及び共有 事業主と全ての職員は、グループホームの理念・意義と役割を理解している。	○		理念の揭示はしていないが、年間を通してのミーティング、会議等でその都度確認し、管理者と職員はそれを踏まえ、より高いものを目指し日々努力している。
記述 I		グループホームとしてめざしているものは何か。 (記述) 職員は理念の実現に向け日々努力している。 ○ 基本的人権と自己決定を尊重して誠心から健やかで生きがいのある生活を確保します。 ○ 信念をもって磨かれた知識技能者として利用者の立場に立ち、利用者中心の質の高いサービスを提供することで自立した生活を確保します。 ○ 施設は地域住民に開放し共有します。 ○ 利用者の支援は細やかで心が通う意思伝達とチームワークで共生を確保します。			

項目番号		項 目	できている	要改善	判断した理由や根拠、特記事項、改善すべき点等
外部	自主				
Ⅱ 生活空間づくり 1 家庭的な生活空間づくり					
2	4	○ 家庭的な共用空間づくり 共用の生活空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）がいずれも家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的である。	○		建物は木造にこだわり、家庭的な雰囲気を有するためにテーブル、イス等物品は木を使ったものを使用し、普通の家庭と違わないようにしている。
3	6	○ 入居者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり 居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。	○		できるだけお家に近い感じを出すよう入居者の方が安心して過ごせるようにと棚、テーブル等家具類、写真、スプーン等こだわりがあるものは持ってきてもらっている。個々が持ってきた暖簾も個性がありました。
4	7	○ 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを、入居者が楽しんだり、活動できるように活かしている。（物干し場、園芸、水まき、草取り等）	○		リビングの窓からはウッドデッキを通してすぐ側に畑があり、別ユニットからも出入りでき交流も図りやすく、空豆、エンドウ等収穫物を食材として喜びを一緒に味わう工夫もありました。
2 心身の状態にあわせた生活空間づくり					
5	10	○ 場所間違い等の防止策 職員は、入居者一人ひとりがホーム内の場所が分かるかを把握していて、家庭的な雰囲気をこわさずに、場所の間違いや分からないことでの混乱を防ぐための工夫がある。（トイレや部屋の目印等）	○		扉が同じであるので入居者の方から個々に暖簾を持ってきて頂いたり、ドアノブに目印となる縫い物を取り付けたりしている方もおられ居場所の混乱防止の工夫が来ています。

項目番号		項 目	できている	要改善	判断した理由や根拠、特記事項、改善すべき点等
外部	自主				
記述Ⅱ		入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か。 (記述) ○ 家庭的な雰囲気有すために木造製品にこだわり、できるだけ普通の家庭と違わないよう取り組んでいる。 ○ 利用者個人のなじみの物を持ち込んで個人に合った居室空間作りと小物や食器等使い慣れたもので落ち着いた生活への場作りに努めている。 ○ 居室以外のリビングはソファ、和室にこたつ、ウッドデッキ、ベンチと用途に合わせて居場所の確保ができるようにしている。			

Ⅲ ケアサービス 1 ケアマネジメント					
6	18	○介護計画への入居者・家族の意見の反映 介護計画を、入居者や家族とも相談しながら作成している。	○		家族の面会時、カンファレンス等を利用して意見、希望を聴取し、それを踏まえスタッフ間で相談、検討がされている。
7	20	○個別の記録 日々の介護や介護計画に反映させるため、入居者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録している。	○		毎日の経過を記述する介護記録と入居者一人一人の写真付の生活状態表もあり日々の変化や行動が把握できるものでした。 スタッフ全員がパソコンを用いている事もあり見やすく、分かりやすいものでした。
8	21	○確実な申し送り・情報伝達 職員の申し送りや情報伝達を確実にいき、重要な点はすべての職員に伝わる仕組みを作っている。	○		口頭での申し送りや介護日誌、連絡ノートを用いて職員に伝わる仕組みを作っている。 スタッフには記名にて確認するようにしている。

項目番号		項目	できている	要改善	判断した理由や根拠、特記事項、改善すべき点等
外部	自主				
9	22	○チームケアのための会議 チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、すべての職員で、定期的に（緊急案件がある場合にはその都度）会議を開催し、活発に意見交換を行って合意を図っている。	○		全体会議、ユニット内会議等は定期的に行われている事を職員の方から聞きました。休日で出られない方は事前に意見書を出してもらう等意見交換や合意が行われており全職員が会議録で確認している。
2 ホーム内でのくらしの支援 (1) 介護の基本の実行					
10	23	○入居者一人ひとりの尊重 職員は、常に入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行っていない。（入居者一人ひとりの違いの尊重、さりげない介助、プライベートな場所での礼儀、本人の返答能力に応じた質問方法、本人が思っている「現実」を否定しない等）	○		スタッフの入居者の方への接し方、表情、また、入居者の方の表情、態度からも人格を尊重したケアが実施できている事が見て取れました。実際に入居者の方に聞きますと「よくしてくれて、いい人ばかり」とおっしゃっていました。
11	24	○職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ 入居者のペースに合わせて職員の言葉かけや動きがゆったりしていて、喜びを引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○		職員の表情、態度、場の雰囲気に対人援助の基本がしっかりとなされていました。入居者が感情表現できる働きかけだと思いました。
12	27	○入居者のペースの尊重 職員は、職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。	○		入居者の方を見ると自由に自然な生活を送っているのが見て取れました。すべての事に本人の意志を優先している。

項目番号		項目	できている	要改善	判断した理由や根拠、特記事項、改善すべき点等
外部	自主				
13	28	○入居者の自己決定や希望の表出への支援 職員は、入居者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切に、それらを促す取組を日常的に行っている。（選んでもらう場面を作る、選ぶのを待つ等）	○		実際にボランティアの方によるバイオリンの演奏会があり、入居者の方の表情からも自己決定、意思表示の支援はなされていた。
14	29	○一人でできることへの配慮 入居者一人ひとりのいいところ、できているところ、その人らしさ等を見つけ、今ある力を維持し、楽しく安心して自分のできることをしたくなるように、見守ったり、力づけるようなコミュニケーションや働きかけを行ったり、一緒にやったりするように日常のなかで心がけている。	○		日常生活における食事作り、片付け、掃除等レク活動における畑仕事、裁縫等の活動を通してその人らしさの場面を見たり、入居者の方から聞いたりする事で出来ていると思いました。
(2) 日常生活行為の支援					
1) 食事					
15	39	○入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫 入居者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。	○		入居者一人一人の咀嚼、嚥下能力、体調に合わせた工夫が行われている。 カロリー対策はしていないが目安になるものを貼り出すようにしている。また、季節に応じた食材も提供できている
16	42	○食事を楽しむことのできる支援 職員も入居者と同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。	○		実際に職員も一緒に楽しんで食事をしている。 食事のペースが遅い方はできるだけ同じテーブルにし片付けはその方々が食べ終わるのを待つ等の配慮もある。

項目番号		項 目	できている	要改善	判断した理由や根拠、特記事項、改善すべき点等
外部	自主				
2) 排泄					
17	43	○排泄パターンに応じた個別の排泄支援 おむつをできる限りしないで済むように、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	○		排泄パターンが把握できたとの事で現在は排泄チェックをつけずその都度対応するようにしている。
18	45	○排泄時の不安や羞恥心等への配慮 排泄の誘導・介助や確認、失禁の対応は、不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。	○		利用者に応じて昼にできない事は夜に実施するようにしている。 失禁ある方には他の入居者に悟られないようにしたり、時間をズラす等適切な配慮がされていました。
3) 入浴					
19	47	○入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援 入浴前に健康状態の確認ができており、入居者の希望に合わせ、くつろいだ入浴ができるように支援をしている。	○		入浴は一日置きに支援、毎日希望の方には入られない時もあるためその都度声かけをしている。入浴拒否がある方に対しては、言葉かけ、対応の工夫により入居者の希望に合わせた支援をしている。
4) 整容					
20	51	○プライドを大切にした整容の支援 整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしてさりげなくカバーしている。(髪、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○		嫌がっている時は無理強いせず、その時々に合わせて、声かけ、対応を工夫する等して、さりげなく支援している。

項目番号		項 目	できている	要改善	判断した理由や根拠、特記事項、改善すべき点等
外部	自主				
5) 睡眠・休息					
21	53	○安眠の支援 入居者一人ひとりの睡眠のパターンを把握し、夜に眠れない入居者には、1日の生活リズムづくりを通した安眠策を採っている。	○		個々の記録で睡眠状態の把握をしている。眠剤使用者もいないとの事で入居者は安眠できている。
(3) 生活支援					
22	56	○金銭管理と買い物の支援 日常の小遣い程度の金銭管理を本人が行えることを尊重し、個々の力量に応じて必要物品や好みの買い物をする機会を日常的に作っている。	○		施設内での買物は週3回売店があるとの事で小遣い程度持つ方もいる。 持っていないと落ち着かない方には、心身の安定を図るためにも、できるだけ持って頂いている。
(4) ホーム内生活拡充支援					
(5) 医療機関の受診等の支援					
23	63	○認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保 直ぐに診てもらえたり、往診してくれたり、入院を受けてもらえる医療機関が確保できている。	○		医療機関、歯科診療所、往診医師等日ごろから健康管理や相談をして連携に努めている。
(6) 心身の機能回復に向けた支援					
24	67	○身体機能の維持 認知症の人の身体面の機能低下の特徴（筋力低下、平衡感覚の悪化、嚥下機能の低下等）を理解し、買い物や散歩、調理、楽しみごと等の日常生活の中で自然に維持・向上するように取り組んでいる。	○		車イスの方でも座ってできるリハビリ体操を取り入れたり、生活の中での散歩、調理、片付け、掃除等の個々の楽しみ事を行うことで自然に維持、向上が期待できる。

項目番号		項 目	できている	要改善	判断した理由や根拠、特記事項、改善すべき点等
外部	自主				
(7) 入居者同士の交流支援					
25	68	○トラブルへの対応 職員は、入居者同士のけんかやトラブルの原因を把握し、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の入居者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○		トラブルは少ないという事で、事前に職員の方が席の配置、入居者への調整、予防策が図れ、トラブル回避に努力されていることと思います。
(8) 健康管理					
26	71	○口腔内の清潔保持 入居者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○		毎食後の口腔ケアを中心に口腔内の清潔保持がなされている。 職員も大切さを理解し勉強会に参加されるなど知識の向上が図れている。
27	72	○身体状態の変化や異常の早期発見・対応 入居者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように、すべての職員が注意しており、重度化や入院を防ぐ努力をしている。また、その変化やサインを記録に残している。	○		入居者の普段の様子を見ていく中で変化、サインを記録に残し、伝達、共有する事で異常の早期発見に繋がっている。
28	74	○服薬の支援 職員は、入居者が使用する薬の目的と副作用、用法や用量を知っており、入居者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。	○		誤薬を防ぐ工夫として個別に氏名、日付を入れる等分かりやすくボードに貼布してある。 薬情報も見やすい個人ファイルに挟んである。

項目番号		項 目	できている	要改善	判断した理由や根拠、特記事項、改善すべき点等
外部	自主				
3 入居者の地域での生活の支援					
29	80	○ホームに閉じこもらない生活の支援 入居者が、ホームの中だけで過ごさずに、積極的に近所に出かけて楽しめるような雰囲気を作っている。（買い物、散歩、近隣訪問、集会参加等）	○		近くの教会、あじさいホール、催し物、また、近隣への散歩等積極的に参加されています。散歩を楽しみにされている方もおられました。
4 入居者と家族との交流支援					
30	84	○家族の訪問支援 家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。（来やすい雰囲気、歓迎、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等）	○		家族が希望すれば宿泊可能であり、これまでに3回程泊まられている。 また、家族の方の意見からも、家族の連携も図れ気軽に訪問できる雰囲気作りがなされている。
記述Ⅲ		一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシーの保護のため取り組んでいるものは何か。			
		（記述） ○ 個人の生活リズム、プライバシーを尊重し、掃除、洗濯干し、調理、縫い物、庭仕事等個人のできる能力と得意なことに力を発揮できる様に、また、趣味など今まで取り組んでいた事が継続できる支援に取り組んでいる。 ○ プライバシー保護に配慮してトイレ、入浴は1対1で対応している。			

項目番号		項 目	できている	要改善	判断した理由や根拠、特記事項、改善すべき点等
外部	自主				
IV 運営体制					
1 事業の統合性					
31	86	○責任者の協働と職員の意見の反映 法人代表者及び管理者は、ケアサービスの質の向上に熱意を持ち、それぞれの権限や責任をふまえて共に取り組んでおり、介護従事者の採用、運営方法、入居者の入退居の判断等について、職員の意見を聴いている。	○		全体会議、ユニット内ミーティング、委員会、内部・外部研修を通して情報の共有を行い、意見の統一を図れるよう話す機会も多く取られており前向きな姿勢が見受けられました。
2 職員の確保・育成					
3 入居時及び退居時の対応方針					
4 衛生・安全管理					
32	100	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている。	○		消化訓練は春に初めて実施し今後は年内に実施する予定である。防火訓練は法人で実施されその都度参加している。緊急時の対策も法人による協力体制ができており安全避難場所も確保されている。
6 相談・苦情への対応					
7 ホームと家族との交流					
33	106	○ 家族の意見や要望を引き出す働きかけ 家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、面会時の声かけ、定期的連絡等を積極的に行っている。	○		家族の意見や要望を引き出すために面会だけでは困難との事でできるだけ連絡を入れている。夏祭りの家族会では18家族中11家族の参加も見られたとの事で家族交流が図れていると見受けられました。
34	107	○家族への日常の様子に関する情報提供 家族に、入居者の暮らしぶりや日常の様子を定期的、具体的に伝えている。（「たより」の発行や行事ビデオの上映、写真の送付等）	○		施設内で発行している「あじさい便り」と一緒に入居者の1人1人の生活記録（写真付）の書類を家族へ毎月送付している事も個人ファイル等により確認できました。

項目番号		項 目	できている	要改善	判断した理由や根拠、特記事項、改善すべき点等
8 ホームと地域との交流					
35	110	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	○		運営推進委員会も年3回程実施しているが家族からの意見は聞かれない事もあり面会時や電話連絡等で要望を聞くよう勤めている。 これからも積極的に取り組む姿勢が伺えた。
36	114	○地域との連携と交流促進 地域の一員として町内の活動に参加し、地域の人達が遊びに来るような働きかけをしている。	○		地域の方とも良好な関係を築いておりボランティア（手芸・紙芝居・音楽）等の方や地域の方も逢いにきてくれる事を聞き地域交流も図れていると思います。当日もバイオリン演奏のボランティアの方が来られみなさんで楽しく歌われていました。
37	117	○ホーム機能の地域への還元 ホームの機能を入居者のケアに配慮しながら地域に開放している。（認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受入れ等）	○		夏祭りでの地域の方の参加、また、見学、ボランティア、学生研修の受け入れ等体制は整備されている様に感じられました。
記述Ⅳ		サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。			
		（記述） ○ 全体会議、ミーティング、計画担当者、内部研修、法人内委員会、外部研修を通じ、各種マニュアルの見直し、職員間で情報共有を行う事で意見の統一もなされている。 ○ 毎月の入居者のご様子も個々の生活記録にて家族へ報告できており、常日頃から家族との連絡も密にされている。 ○ 職員自身も意識レベルが高くサービスの質の向上に向け日々努力されています。			